

『みんなの図書館』2015年10月号（図書館問題研究会 2015年9月10日発行）

## 山口支部「図書館を学ぶ会」一田井郁久雄氏の武雄市図書館問題講演会の略報

図書館友の会山口県連絡会 藤村 聡

6月29日(月)午後2時から4時に岩国市民会館にて、「図問研山口支部」と「図書館友の会山口県連絡会」、「学校図書館を考える会・岩国」で「図書館を学ぶ会」を共催した。

講師は田井郁久雄氏(元広島女学院大学准教授、元岡山市立中央図書館奉仕課長)、演題は「武雄市図書館の実態と問題を考える～あまりにも疑問が多いCCC(ツタヤ)指定管理図書館」。

岩国市で開催した理由である岩国駅前再開発ビル事業は、いま基地関係の公共工事が多いこともあってあまり進展していないために、参加者がどうなるか心配されたが、目標を越える57人が来場された。図書館職員や図書館友の会員・学校図書館を考える会員など関係者が約30人、商工関係や議員ほかの市民も多く満室の盛会となった。

田井氏は武雄市図書館は成功していないとして、不正確な統計数値とサービスの実態を暴き、図書館建築としての特徴と問題も指摘、経費も大幅に増加していると糾弾された。また武雄モデルの拡大について何が問題かを鮮明にされ、自治体とCCCとの法の趣旨を逸脱した不適切な関係、商業施設が主でCCCのための税金支出の問題点も指摘。さらに「民営化」というイメージとその実状については、サービスの向上も、経費の削減もなされておらず、地域にメリットをもたらしていないと厳しく論難。

リニューアル以後に2回、以前に1回視察された武雄市図書館の実態を中心に、詳細な数値による分析とグラフ、図書館現場の写真使用によるパワーポイントを駆使して、種々の問題点を分かり易く説得力のあるお話しをされた。図書館を学ぶ会にふさわしく充実した有意義な講演会と好評であった。

参加者にも、演題のとおりCCC(ツタヤ)指定管理図書館にはあまりにも疑問が多いことへの認識を広げるとともに、武雄モデルを反面教師として図書館の望ましい在り方についての理解も深められたのではないかと思う。

私どもとしても、現在進行中の周南市新徳山駅ビル図書館への要請活動はもちろん、これからの進展が憂慮される岩国駅前再開発ビル図書館への対応にも、早速活用できる内容で大変参考になった。田井氏の長年にわたる実践経験と研究活動さらに広範な調査・情報収集に基づき、図書館に対する一貫した基本的な考え方に改めて敬服する講演であった。

山口県内の図書館をめぐる環境もますます厳しくなるものと予測されるけれども、しぶとくねばり強く何とか前途多難を切り拓いていければと思っている。